

<株式会社エフエム東京 第454回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成 30 年 12 月 4 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 11 階 JET STREAM 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(4 名)

横 森 美 奈 子 委員長	ロバート・キャンベル 委員
秋 元 康 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員(2 名)

渡 辺 貞 夫 委員	内 館 牧 子 委員
------------	------------

◇社側出席者(10 名)

富木田	代表取締役会長
千 代	代表取締役社長
平	専務取締役
吉 田	常務取締役
村 上	常務取締役営業局長
西 川	常勤監査役
森 田	執行役員編成制作局長 兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江	営業局エグゼクティブ・プランナー(オブザーバー)
宮 野	編成制作局編成部長
若 杉	編成制作局制作部長

◇社側欠席者 (0 名)

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題: CM試聴 (約 14 分)

CM 試聴 「日本民間放送連盟賞」等を受賞した CM(TOKYO FM 制作)をはじめ、  
TOKYO FM 制作の CM を試聴

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■2018 年 10 月度 聴取率調査結果について

2018 年 10 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間:2018 年 10 月 15 日~10 月 21 日)

M1F1 層の全日平均において、今回はスコアを回復することができ、6 月以来 2 期ぶりにターゲット聴取率 No.1 を奪回しました。

今回の特長としては 20 代男女では同率首位、30 代男女で単独首位と当社ターゲット層でトップとなったほか、F1 を筆頭に女性層の回復基調と、ラジオ聴取のボリューム層でもある 40 代男女が伸びたこともあり、12-59 歳区分でも聴取率上昇、リーチ(到達率)では在京単独トップとなりました。

スコアが落ち込んだ前回は、面積の大きい平日ワイドの落ち込みが低迷要因となっておりましたが、今回は M1 層で 5 ワイド番組、F1 層で 6 ワイドが同時時間帯番組の中で在京トップとなり、課題克服につなげることができました。今回は、8 月に編成した Ginza Sony Park Studio からの生放送による金曜午後ワイド「TOKYO SOUNDS GOOD」、日曜 11 時 30 分の新番組「木村拓哉 Flow」がターゲット層で高スコアを獲得。10 月改編で実施した「Skyrocket Company」の 1 時間拡大による 19 時台のスコアが上昇しました。課題であった朝番組「クロノス」は、Ginza Sony Park Studio からの公開生放送を行うなど、リスナーと直接触れ合う機会を作り、リスナーオリエンテッドの意識を強化したほか、以降のデイトタイム帯も内容、演出、選曲等の細部の見直しに取り組んだ結果、前回比でスコアが上昇しました。

一方で、週末は特に日曜午後帯で 20 代男性層が低迷している点や、夜帯番組のスコア低迷など課題も残しております。引き続き課題点の克服、ターゲット層の心に響く放送を心がけると共に、2020 年の開局 50 周年に向けて、編成論の再構築に取り組んでおり、更なる聴取率向上を目指して具体策を講じてまいります。

■『FM Festival 未来授業 2018~明日の日本人たちへ~』開催

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局では、未来を担っていく大学生たちにエールを送る企画『FM Festival 2018 未来授業~明日の日本人たちへ~』を全 5 会場で開催しました。今年のテーマは『僕らの時代の生存戦略』。

2010 年の開催から 9 回目を迎えた今年は、装いを新たに、アカデミアとアー

ティストの対談形式で実施。11月14日に TOKYO FM ホールで行われた東京会場は、建築家・隈研吾とサカナクション・山ロー郎が『2020年の潮流～不確かな未来をリードする、ニッポンのデザイン』をテーマに、人工生命学者・池上高志と水曜日のカンパネラ・コムアイが『アートから生まれる生命、科学から生まれるアート』をテーマに授業を行いました。総合司会を脳科学者・茂木健一郎と『SCHOOL OF LOCK!』のとーやま校長がつとめ、さらに、現役大学生として樺坂 46 の尾関梨香も参加。新たな試みとなった東京会場では、定員 250 名のところ 880 名の応募があり、全 5 会場の応募総数は過去最高の 1,650 名となりました。

地方会場は、10月20日に大分県ハニカムカフェにて、プロ車椅子ランナーの廣道純（ひろみち・じゅん）を講師に迎え『視点を変えれば、世界は変わる』をテーマに開催。10月21日に京都造形芸術大学にて、企業家の小笠原治（おがさわら・おさむ）を講師に迎え、『AI時代に、アイデアをカタチにするには』をテーマに開催しました。

11月3日には、国際フォーラムにて、経済小説『ハゲタカ』シリーズの著者・真山仁（まやま・じん）を講師に迎え、『新しい世界を作る勇氣』をテーマにパナソニックとタイアップした特別セッションを開催。11月4日には、早稲田大学の学園祭にて、人気ブロガー・はあちゅう等を迎え未来授業を一緒に盛り上げる現役大学生スタッフ「学生コミュニケーター」が企画した特別セッションを開催しました。

この模様は、11月23日（金・祝）に TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局にて 3 時間の特別番組として放送いたしました。



▲東京会場の集合写真



▲東京会場の講師陣



▲サカナクション・山ロー郎と隈研吾



▲樺坂 46 尾関梨香

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率の回復は安心した。平日ワイドの落ち込みの回復が一因とのことだが、具体的に何か策を講じたのか？

■大きなカンフル剤を打ったとか、大きく変化を付けたとかは特段なく、通常の番組制作における構成を細部から見直して、細かいメンテナンスを重ねた。また、制作に携わるスタッフたちの、番組への向かい方、気持ち面からも「気」を高めるように、モチベーションを上げていくようにした。朝のワイド番組「クロノス」においては、午前6時から銀座ソニーパークから公開生放送を行ったところ、早朝にもかかわらず多くのリスナーが出勤前に立ち寄り、集った。この時間の公開放送は初めてのことだったが、リスナーからの気もあつまり、活気のあるスタートとなった。

○リスナーとの距離を近づけることは良いことに思う。また、長く続く番組なので変化を付けることも良い機会になったのでは。

■20代男性層の日曜や夜の時間帯に課題があるとのことだが、どのようなものか。関連はあるのか。

○今回、日曜日の午後で20代男性に全く数字が出なかった。弊社だけではなく、全局ともで、これは過去にもない結果。調査に何かあったのかもしれない、と思わず、しっかりと受けとめて見直していきたい。

■行動に変化があるのか、編成の問題なのか。

○今までになかったことなので、現段階では何とも言えないが、社会的な事実としては調査該当日はプロ野球のクライマックスシリーズが当たっている。しかし、そのことが理由とは思えない。本来であれば日曜午後は看板番組を揃え、数字の高い時間帯。40代50代などはいつも通り高い支持を得た。今後は検証をしていきたい。

○未来授業も今年は大変な盛り上がりを見せた。スポンサーのパナソニックの100周年記念事業においては未来と若者というコンセプトが合致し、メディアで唯一タイアップした企画を行うこととなった。

■1650名からの応募はすごい。今後も期待している。

**議題2: CM試聴 (約14分)**

TOKYO FM が制作し、今年度の CM コンクールで受賞した CM の中から、  
主な作品をご紹介します。

**【試聴CMリスト】**

＜2018 年日本民間放送連盟賞ラジオ CM 第 1 種部門(20 秒以内)最優秀受賞＞

CM①JASRAC／「3B」20 秒

CM②TOKYO FM／「毛」20 秒

＜ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS ブロンズ受賞＞

CM③TOKYO FM／「名前」20 秒

＜JFN 賞 2018 弘兼憲史賞 受賞＞

CM④ピンゴルフジャパン／「お静かに」20 秒

＜ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS ファイナリスト入選＞

CM⑤TOKYO FM／「あなたはそこに」135 秒

＜2018 年日本民間放送連盟賞ラジオ CM 第 2 種部門(20 秒以上) 優秀賞受賞＞

CM⑥キャノンマーケティングジャパン／「だまし音」60 秒

＜その他 TOKYO FM 制作 CM＞

CM⑦聖教新聞／「それぞれのカラー」75 秒

CM⑧大日本印刷／「運命」100 秒

CM⑨大日本印刷／「雨の音」100 秒

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○とても良い CM で面白く聴いた。CM の解説は不要だった。解説されると、自分の中での想像や解釈の楽しみがなくなり、もったいない。しかしどれも素晴らしい作品だった。ピンゴルフジャパン／「お静かに」篇での音の間の取り方、キャノンマーケティングジャパン／「だまし音」篇など、耳をそばだてるラジオの特性を活かした良い CM だと思った。テレビでもラジオでもどちらでも構わない CM も多くあるが、今年度はこのようにラジオの特性を活かした CM が多く聴けたのが良かったと思う。

○TOKYO FM／「名前」篇のラジオネームという着眼点は面白い。TOKYO FM／「あなたはそこに」篇は、震災の CM だが、真実は強いと思った。思わず聴き入った。今のラジオが持っている問題、映像がないということ、何かをしながらラジオを聴くこと、星座をしながらラジオを聴く、聴き入るということをもう一度テーマにすると新しいラジオの未来が見えてくると思った。

○最近テレビを見ていて、番組より CM が面白いなと思うことがある。相対的に番組の質が下がっているということもあるのかもしれないが、立ち止まって考えさせられる CM が多くあり、CM とは面白いなと改めて気づいた。TOKYO FM／「名前」篇はとてもおもしろかった。ラジオネームを 2 人で言い合うだけで、内容はとても簡単なものだが、ラジオネームが面白いので、笑えるし、恥ずかしさも感じる。TOKYO FM／「毛」篇は、身体のどこがあり得るのかと、音だけでいろいろ想像させられた。

○TOKYO FM／「あなたはそこに」篇は、時間の経過、被災者がどういう状況にあるかという、「何か」を感じさせるものだった。キャノンマーケティングジャパン／「だまし音」篇は面白かったが、別に誰かを意図的にだましている訳ではないのに、最後で恐怖をあおるという構成の最後の部分のオチに物足りなさを感じた。聖教新聞／「それぞれのカラー」篇は、ランドセルの色が増えているという表現が良かった。色が増えていくとレインボウ、決められた色についてなど。どこにも LGBT という直接的な言葉を使っていないのには意図があると思うが、それで伝わるのかという疑問が残った。ふわっとしている印象も受けたので、何を言いたいのか、直接的な言葉で言っても良い気がした。大日本印刷／「運命」篇は男性と女性の表現が上手くできていると思った。

○今回 CM を視聴して、ラジオとはまず音があって、そして言葉があると実感した。音は快・不快に直結している。ハサミで何かを切る音というのは、他の表現には言い換えられない、とても身体に残る音。自分の感覚と結びつくことで、聴いたという感じが残った。TOKYO FM／「あなたはそこに」篇については、とにかく谷川俊太郎さんのコピーはすごい。この名前があるかないかで、聴いた言葉に魔法がかかるか、かからない

かの違いがある。このクレジットがあるだけで、違って聴こえる。言葉の力なのか、谷川俊太郎の力なのか。感動せずにはいられない。あの時、という表現の中に、人々が無くなったことも織り込まれ、意味が何層にもなってとても良く作られている CM。

○聖教新聞／「それぞれのカラー」篇は、世の中にはまだ LGBT に関心や知識がないものが 8 割～9 割いると、私は感じている。そういう人たちの中でちょっとでも LGBT 話題に触れると、うるさいと言われる。ランドセルという実際に変わっている事実、もう男女とかなという事実を紹介するのは意味があると思った。それが当たり前であるという文化を作っていくのがメディアの役割なのでこれからも続けて欲しい。

○JASRAC／「3B」篇は表現が面白く、テンポもよく、最後にくすっと笑えた。TOKYO FM／「あなたはそこに」篇は、谷川俊太郎さんの「本当に出会った者に別れは来ない」という言葉に衝撃を受けた。直近で友人を亡くしたこととリンクして、胸に響いた。遺族の出演部分も本当につらい経験をした人のリアリティがあると思うが、谷川俊太郎さんの言葉があまりに際立って、コントラストさえ感じてしまってもううまく消化できなかった。

○キャノンマーケティングジャパン／「だまし音」篇も良くできていると思った。中国で AI のアナウンサーが誕生したというニュースを見たこともあり、おもしろく聴いた。CM を聴いているときは合成音と気付かず、世の中は気付かないうちに変改しているということを実感した。

○聖教新聞／「それぞれのカラー」篇はとても意味のあることを言っているが、最後がふわっとしているので、最終的にふわっと受け止めてしまう印象があった。これはそういう意図なのか。

■社会のテーマを切り取って疑問を投げかけることに意味があるという流儀なのではないかと認識している。

○CM 制作に勇気がある。クリエイティブの現場には、ネットが荒れそうなものは避ける傾向がある。JASRAC／「3B」篇などは、バーテンダー協会からクレームが来たらどうしようとか恐れてしまうかもしれない。目立つものは叩かれる。気を付けなくてはいいけないが、そのくらいじゃないといいものができないのかもしれない。

<第 454 回放送番組審議会>

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

12月29日(土)7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、2月5日(火)に開催することを決めた。